

美しいまちなみ優秀賞

おおずしこうなん

大洲市肱南地区

所在地 愛媛県大洲市
地区面積 約95.5ha
応募者 大洲市町並みイベント実行委員会
大洲市

＜地区の概要＞

肱南地区は、大洲市の中心市街地に位置し、伝統的な文化や個性を色濃く残している。「おはなはん」の街としても有名である。

近年、大洲城天守が完全木造で復元され、また大洲城址の足元を流れる肱川の堤防上で修景護岸事業を実施し、大洲城天守等歴史的建築物と城壁風修景護岸との調和した美しい河川景観を創出している。また「おはなはん通り及び周辺地区」の町並み景観の保全も進められている。

まちづくりの第三セクターである「株式会社おおず街なか再生館」、商工会議所、観光協会、地元建築士会、まちづくり活動グループの各代表で構成される「大洲市町並みイベント実行委員会」によるイベント事



▲市の中心部に位置し、その自然を代表する富士山から対象地区を望む。



▲明治～大正～昭和の初期と木蠟、製糸、舟運に沸いた大洲の町を代表する商業エリアがこの辺りだった。当時は、商店の2階部分も商品倉庫であったのか、2階の窓に当時の特徴を残す古民家が見受けられる。



▲保全対象地区にある金物店。明治～大正～昭和初期にかけての最盛期をほうふつとさせる外観にあわせて看板も古めかしいデザインに変更した。



▲左の土蔵は、かつての木蠟倉庫を保全したものの、水害の歴史を物語る物件の一つで、商品を水害から守るために、石積みの上に土蔵が建築されている。右手の塀は、単なるブロック塀だったものを改修事業で改善したものの。



▲『ポコベン横丁』。えひめ町並博2004を機に大ブレイク。かつては、月に1度の開催だったが、現在は春、夏、秋にかけては、毎週1回(日曜日)の開催となった官民共同事業。奥手の倉庫も改修され、常設展示館「思ひ出倉庫」として活用されている。



▲『おおず赤煉瓦館』。明治34年に当時の製糸業を代表する大洲商業銀行の本館として建築されたもの。平成3年5月に市が外観を保全してリニューアルオープンさせ、以後観光施設として広く親しまれている。